

第3回沖縄鉄軌道県民会議の結果（案）

1. 開催状況

日 時：平成28年6月4日（土）13:00～17:00
場 所：沖縄県中部合同庁舎 4階 会議室
出席数：18人（県民会議メンバー47人）
出席者内訳：年齢（29歳以下2人、30歳以上16人）
地域（北部5人、中部7人、南部6人）

2. 意見の概要

（1）ルート案について

① 共通意見

- ・ ルートの考え方として、人口や観光等をベースに検討されていることは適切である。
- ・ ルートは、県民、観光客を含め、需要の高い主要施設又は人の集まると予想される箇所など需要を考慮すべきである。
- ・ 早期完成と整備費用が少なくなるようなルートの設定。
- ・ ルート検討に当たっては、既存の交通システムも十分に生かし、乗換えがスムーズになることも考慮する必要がある。

② その他意見

- ・ 交通渋滞の緩和
- ・ 県土の均衡ある発展
- ・ 那覇市～糸満市方面については、今後いろいろ検討したうえで、場合によっては骨格軸の導入も考える。
- ・ 北部東側は沖縄自動車道（高速道路）が縦断しているため、高速バス等でカバーできる。
- ・ 移動手段だけでなく、乗っていて楽しい等の観光的要素も必要。

（2）フィーダー交通について

① 共通意見

- ・ 骨格軸だけでなく、フィーダー交通で県内をくまなく移動可能とすることが重要。
- ・ 骨格軸では補えなかった主要施設等を結ぶフィーダー交通の整備により観光客と県民の生活に役立てる。
- ・ バスやモノレールなどの既存の交通システムとの連携を十分に考えないと、採算性からみても現実的ではなくなる。

② その他意見

- ・ 那覇周辺のフィーダーは環状線ができるとよい。
- ・ 比較的過疎地域等では「Uber」（一般の自家用車によるサービス提供の仕組み）の利用がよい。
- ・ 地域ごとに、コストの安い小型バスで、運行ダイヤを頻度高くしたコミュニティバスを走らせる。

（３）公共交通システムについて

① 共通意見

- ・ 交通システムについては、いろいろなニーズや県民生活を踏まえて選択する。一方で、コストの面や県土の将来の発展の姿も想定して検討しなければならない。

② その他意見

- ・ 公共交通システムについて、速達性を最重要視しているのであれば、普通鉄道や小型鉄道といった運行速度が速く、高輸送力の交通システムしかないのではないか。
- ・ フィーダー交通は既存の交通システムと、「LRT」を使用する。新技術である「LRT」には、バスでは補えないサービスの提供を期待する。
- ・ 那覇市、浦添市、宜野湾市の面的に形成された市街地には、駅から放射状に広がるフィーダーとして路線バスを導入する。